

東海ブロック●瀬戸大会

ロクロ、
絵つけ体験も

平成7年9月15日(金)東海ブロック大会が、瀬戸市文化センターで開催された。今年大会では、各県からの協力により登録総数が7,000名に達した。プロクロ大会の内容は次の通りです。

- 第1分科会 本事業を助けてくれた会費
- 第2分科会 陶芸のこころ
- 第3分科会 セラミックの歴史と未来
- 第4分科会 ロクロの体験コーナーを行いました。
- 第5分科会 体験アザゼ



プロクロ大会の様子。左から右へ、ロクロ体験、絵つけ体験、陶芸のこころ、セラミックの歴史と未来、本事業を助けてくれた会費。

関空への
熱い期待



関西国際空港ブロック大会の様子。左から右へ、関空の現状と将来、関空の歴史と文化、関空のまちづくり、関空の環境と防災。

9月9日(土)秋晴れに恵まれ、第13回関西国際空港ブロック大会が、関西国際空港ホテルで開催された。大会では、関空の現状と将来、関空の歴史と文化、関空のまちづくり、関空の環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、関空のまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

近畿ブロック●高石大会

9月9日(土)秋晴れに恵まれ、第13回近畿ブロック大会が、高石市文化センターで開催された。大会では、近畿ブロックの現状と将来、近畿ブロックの歴史と文化、近畿ブロックのまちづくり、近畿ブロックの環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、近畿ブロックのまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

9月10日(日)秋晴れに恵まれ、第13回中国ブロック大会が、高松市文化センターで開催された。大会では、中国ブロックの現状と将来、中国ブロックの歴史と文化、中国ブロックのまちづくり、中国ブロックの環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、中国ブロックのまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

中国ブロック●出雲大会

9月10日(日)秋晴れに恵まれ、第13回中国ブロック大会が、出雲市文化センターで開催された。大会では、中国ブロックの現状と将来、中国ブロックの歴史と文化、中国ブロックのまちづくり、中国ブロックの環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、中国ブロックのまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

9月10日(日)秋晴れに恵まれ、第13回中国ブロック大会が、出雲市文化センターで開催された。大会では、中国ブロックの現状と将来、中国ブロックの歴史と文化、中国ブロックのまちづくり、中国ブロックの環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、中国ブロックのまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。



第15回記念大会の様子。左から右へ、記念大会の開催、記念大会の歴史と文化、記念大会のまちづくり、記念大会の環境と防災。

第15回記念大会に
1,000名が参加

第15回記念大会が、9月14日(木)に福岡市で開催された。大会には、全国の関係者から1,000名が参加した。大会では、記念大会の開催、記念大会の歴史と文化、記念大会のまちづくり、記念大会の環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、記念大会のまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

九州ブロック●串間大会

9月14日(木)秋晴れに恵まれ、第15回九州ブロック大会が、串間市文化センターで開催された。大会では、九州ブロックの現状と将来、九州ブロックの歴史と文化、九州ブロックのまちづくり、九州ブロックの環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、九州ブロックのまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

鳳翔太鼓が
鳴り響く!!

第13回熊本大会が、9月10日(日)に開催された。大会では、熊本大会の開催、熊本大会の歴史と文化、熊本大会のまちづくり、熊本大会の環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、熊本大会のまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

第13回熊本大会が、9月10日(日)に開催された。大会では、熊本大会の開催、熊本大会の歴史と文化、熊本大会のまちづくり、熊本大会の環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、熊本大会のまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

四国ブロック●鶴岡大会

9月10日(日)秋晴れに恵まれ、第13回四国ブロック大会が、鶴岡市文化センターで開催された。大会では、四国ブロックの現状と将来、四国ブロックの歴史と文化、四国ブロックのまちづくり、四国ブロックの環境と防災について、関係者から熱い期待が寄せられた。また、四国ブロックのまちづくりについて、関係者から熱い期待が寄せられた。

「海の新幹線」で熱気

釧路YEG/北海道ブロック

釧路YEGは昨年11月に設立された。現在は会員63名で事業は月1回例会を中心に3つの委員会が活動しています。委員会はそれぞれ地域対策を担当する「らぶ・くしろ」委員会、産業政策を担当する「じとづくり」委員会、交流部門を担当する「なかまづくり」委員会とひらがなで統一。最近の主な活動は「テクノスーパーライナー」(TSL)を題材にしました。TSLは海上を時速100



0キロ以上で走行できる船で「海の新幹線」とも呼ばれ、海上高速輸送次世代の担い手として現在実用化に向けて開発が進んでいます。8月31日には実験船が釧路寄港というところで、まず事前に例会でTSLの勉強会を行い、実際の寄港の時動となるオープンセミナーを「TSL技術研究組合」の中管理部長を講師にお招きして開催。会場は満杯で予想を上回る反響で「TSLの天気予報で一番気温が低い表示の釧路ですが、

クルーズ船で「ユニバーシティ」

能代YEG/東北ブロック

大和客船「サンシャインふじ」によるクルージングは、10月22日夕刻出港しました。昨年度は能代港が開港して20周年の節目であり、青年部が中心となり実行委員会を組織して、能代港を「み」と「ふ」を実施。グレイドアップした企画を、本年度は客船の誘致を計画いたしました。

本年度の実行委員会は広域的に組織し、実行部隊はすべて青年部のメンバーが担当。委員長は青年部5周年の会長(現在は相談役)が努めました。

本クルージングには、能代市民を中心に約700名が参加しました。能代港に到着して以来のビッグイベントであり、本年度のみならず最後のイベントとして位置づけ、2泊3日の予定で、小樽へと能代港を出港。残念ながら



台風14号の北上で予定を半日繰り上げ、無事帰港しました。

サンシャインふじは、能代港1万5千トン岸壁に20日午前9時に接岸し、その後乗船入浴を披露。外航船の入港風景にふれる機会が比較的多い市民ですが、客船の寄港は少なく、白を基調とした船姿で、独特な雰囲気を出しています。

国内最大級の客船チャーターは、能代港の役割等について関心を深めてもらうことが最大の狙いです。そして、参加者には船内でのシャスコサートなどを楽しんでもらいました。

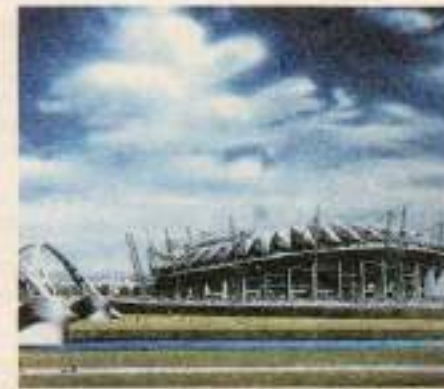
連携軸でゴールラッシュ

豊田YEG/東海ブロック

「豊田市にブルック」
今年4月、愛知県は豊田市に、2002年ワールドカップの国内開催地を決定しました。

豊田YEGは、昨年9月豊田市内で、実に25万人の署名を集めた「6万人収容の大規模球場建設に際する署名」へ積極的に参加、球場をめぐり議論の中で、空洞化の荒波をいかに乗り越えていくのか?これからの豊田市は、どう歩むべきかについて、その一つの解答として「大規模球場」と「スポーツ文化による街づくり」の視点を取り組みを開始しました。

本年、10周年を迎える我々豊田YEGは、6月に平塚YEGを訪問、「ペルマール効果」を探究し、Jリーグを誘致しようとする小



山YEGと、Jリーグチーフマン川淵氏の出身地である高石YEGによる絶妙なYEG連携のアシストを受け、一般市民も対象とした記念講演の講師として「スポーツ文化の伝道師」Jリーグチーフマン川淵氏をお迎えし、産業文化交流都市」を宣言するこの街で新たな産業と文化の融合にむけて、記念すべき一歩を印す事業として参ります。全国YEGの皆様の熱い友情に感謝を致します。

震災被害の子供達を招いて

京都YEG/近畿ブロック



阪神大震災が起こった直後から、京都YEGは、救済物資を届けることから活動を開始しました。

そして、被災地の小学生を京都に招待しようという「京都わんぱくクラブ」の計画を始めたのは、今年2月の中央研修会の受け入れ準備の真っ最中の頃でした。

京都府連と兵庫県連が主催、京都YEGが主管をするものになりましたが、いろいろな団体から予想以上の協力をいただきました。ジュース会社やお菓子会社から商品の提供を、バス会社から無料バスを、マンガ家の先生はサマーサントのキャラクターを描いてくれました。もちろん各地のYEGの支援も大きな支えとなりました。ホフンティアグループ、お医者さん

さん、本当にありがとうございました。7月下旬から8月中旬まで3班に分かれて実施されました。

第1班は西宮の子供達100人を、第2班は神戸の子供達100人を、京都府立南山城少年自然の家、第3班は淡路島の子供達70名を「京都府立青少年海洋センター」へ2泊3日で招きました。キャンプファイヤー、工作、クルージングなど楽しいひとときを過ごして頂きました。

この場をお借りしてご支援いただきましたYEGの同志に感謝を申し上げます。

特集 全国各地から……

研げ感性、広げよフィールド YEG連携時代

体と体をぶつけ合い、激しい議論に熱中し、全国でYEGが、地域の創造に取り組んでいます。北から、南からYEGの活動が届きました。震災や経済不況に「負けてたまるか!」というYEGの叫びです。

盛り上がる「となみ夢まつり」

砺波YEG/北陸信越ブロック

砺波商工会議所青年部の祭りのコンセプトは、「市内の商業の発展の紹介、子供達に最後の夏休みを楽しくてもらう祭り」です。各コーナーを紹介いたします。

①体験コーナーでは右の彫刻・キールホルダー作り、さまざまなものを子供達が作りました。②フリーマーケットでは、たくさんの方が参加、自由に物販をしていただく。③展示コーナーではいろいろな動く車の展示・体験④ステージコーナーでは、クイズ大会や大声コンテスト(飲食コーナー)



では飲食青年部の協力による販売といったさまざまなイベントが1日行われる祭りです。

デッカイ夢を気球に乗せて

小山YEG/関東ブロック



小山YEGは、昨年の関東ブロック大会を機に、様々な地域振興事業に積極的に参加しています。中でも、近隣3商工会青年部、小山J.C.、小山YEGの若手5団体を中心として行う「熱気球日本グランプリ」の開催に向けて、日夜議論を重ねています。

大会開催による商工業の振興、地元経済への波及効果をもたらすため、小山の若手経営者は日々奮闘しています。

この大会の大きな意義は、全体の実行委員長が小山YEGメンバーから選出されたこと、形式だけでなく、

「お城まじり」に熱気

丸亀YEG/四国ブロック

丸亀商工会議所青年部は、昭和59年に設立され、今年10周年を迎えたばかりの心身共に若い青年部です。

中にあるのは大きくはありませんが、全国に12城しかない本道天守閣や扇の勾配と呼ばれる美しい石垣のある築城400年を迎える丸亀城があります。

この丸亀城を中心に「丸亀お城まつり」が毎年5月

に3日間開催され、日本の太鼓祭り・大パレード・丸亀お城村などに多数の人々が参加しています。当青年部は、お城村に、ワタワタランドを設けて、子供達に夢を植え、おもいきって遊べる場を提供しています。

また、地域住民と青年部会員の親睦と目標達成を目的に、木型子氏など経済界、スポーツ界などより著名な講師



を招いて、毎年定期講演会を開催しています。

さて、当青年部は広報誌「お城まじり」を発行し、事業推進・親睦交流の5つの委員会によって運営されており、毎月各委員会を居酒屋などの「ぞくぞくはらん」場所にて実施しているため、会員相互の親睦と連携も密であるという自負しております。

おいしいさめぎょうどん!とお、瀬戸内海の新鮮な魚介類を「煮味」にたくためにも、瀬戸大橋が開通し、ローケーションも良くなった四国丸亀へ是非一度おいでませ。

ジャンボふく鍋でアピール!

下関YEG/中国ブロック

当青年部は、昭和55年11月7日、山口県下関市番町青年部として設立されました。

現在の現役会員数113名で運営されています。

本年度は、創立15周年を10月21日に控えて実行委員会を中心に奮闘しているところと、

そこで、当青年部のユニークな活動を紹介します。地域イベント等で、下関を代表するふく鍋を材料としたジャンボ鍋、名付けて「スーパージャンボふく鍋」を仕込み、市民の皆さんは米場者に振るまわっている事です。

春の5月には下関海峽まつり、冬の11月には下関さ

かな祭を恒例とし、また平成6年11月20日に山口県長門市で開催された「第14回豊かな海づくり大会」に参加、県内外の招待客4000名の方々にふく鍋で接待しました。その他、今年1月の阪神大震災で被害にあわれた皆さんに、少しでもお役に立てればと、有志が集まりふく鍋を多くの方に食べていただきました。

さて、「スーパージャンボ」と名がつくにはそれなりの大きさでなければお話しになりませんが、その鍋は、アルミ合金製で長さ50cm幅4m高さ50cm容量6m³一度に約2万食分が仕込めます。鍋の形は勿論ふく鍋の形になっています。

昨年、新しく製造し直した2代目のふく鍋です。

我々青年部はこの「スーパージャンボふく鍋」が下関市のPRに役立てばと、これからの振興の活動として続けて行きます。



鹿兒島YEGでは、昔の「曾我どんの傘焼き」を復活させる。鹿兒島YEGは、昔の「曾我どんの傘焼き」を復活させる。鹿兒島YEGは、昔の「曾我どんの傘焼き」を復活させる。

「曾我どんの傘焼き」を復活させる

鹿兒島YEG/九州ブロック

古来、鹿兒島薩摩藩では、曾我十郎・五郎兄弟の故事に習い、「忠義と孝行」を重んじています。明治以降も、市内でも郷中教育と言われる市内の各学舎に、その道徳教育が行なわれ、その一行事として不用和傘を集め、戦後の一時期を除き、毎年「曾我どんの傘焼き」という伝統行事が行なわれてきました。

しかし、平成3年以降、会場となる「甲斐川」の増水や後継者不足などの諸事情により残念ながら中断されてきました。

鹿兒島YEGでは、この「曾我どんの傘焼き」を復活させるべく、甲斐川の堤防には約2万人の観客が集まり、河井会長、坂副会長以下青年部会員も、鉢巻をききながら、傘焼祭として参加し、傘と共に地域を愛する心も熱く燃やしています。





角口 賀敏

商青連副会長

「混迷・混純」から「共創・共働」へ

戦後40年目を迎える今、21世紀まであとわずか4年と少しくなりました。1年を振り返るにはいささか早いです。しかし、平成7年は、従来の経済的・社会的・文化的なモノの作り出しが大きく変容しつつあるのを感ずる年です。

経済をみれば、単に我が国だけを視野に入ればよかった時代はとうに過ぎ去り、企業が生き残っていくために海外法人をつくること、あるいは海外進出、それだけに国内の雇用を減らし、全体の不況に格差をかける事態に陥っています。アジア地域の日本企業は2000万をこえる雇用者がいます。

我々がいままさにアジア経済圏の中心となりつつある。いや、好むと好まざるに、いまや日本経済の浮沈は、世界経済の浮沈に関わっているのが現状です。

社会・文化を隔絶した現象をこえて、これら日本社会には見られなかった「グローバル化」の動きが、社会を大きく変容させています。

混迷する混純や混交、混交の中、今一度混迷を脱し、混交を乗り越えていくことが、私たちに求められているのだと

口角賀敏副会長(平成7年7月7日・8日)では、記念講演として、戦後の日本経済の発展の歴史を振り返り、我が国が世界経済の中心となりつつある。いや、好むと好まざるに、いまや日本経済の浮沈は、世界経済の浮沈に関わっているのが現状です。

「混迷」をいかに脱し、いかに生き残るか、よりいっそう問われているのがいま現在の状況ではないでしょうか。そこで、社会は「Y」長(地域連携)を方針にたて、あまたなネットワークの構築を意図されたわけですが、その方針からいって、(1)「混迷」を乗り越える能力やスキルを身につける必要がある。これらに即応する能力やスキルを身につける必要がある。これらに即応する能力やスキルを身につける必要がある。

第13回

中央研修会を 新宮(和歌山)で開催!

「能野アロハスピリッツで」

新宮 YEG
会長 夏山 晃一

平成7年度(第13回)全国商工会議所青年部連合会中央研修会は、来る平成8年2月7・8日の両日、地方都市での初めての大会として、新宮 YEG 会長のもと和歌山新宮町においで開催させていただきます。

これまで、中央研修会は開催されてはきませんが、本年度は、新宮地方の中心地として、紀伊半島の南端に位置し、中世から、城の跡で知られる和歌山新宮町に開催いたします。新宮 YEG は、昭和61年8月22日に発足。以来、豊かで誇り高い街づくりをスローガンに創意と工夫をこらして取り組んでおり、本中央研修会開催を実現出来るとは、地域活性化の一助として、この上なく喜んでいると存じます。

第13回全国商工会議所青年部連合会中央研修会タイムスケジュール

2月6日(木)	15:00~17:00 21:00~22:30	お灯まつり参加者受付並びに開場式 前日研修会 懇話/万井楽:は新都市福祉センター
2月7日(金)	9:30~12:00 12:45~13:45 13:45 14:15~14:30 14:30~14:45 15:00~15:30 15:40~16:10	エキスカージョン 中央研修会登録受け付け 第13回中央研修会開会式 基調講演1 商青連会長 辻 正徳 基調講演2 次年度会長予定者 松田 邦男 事務発表 YEG連携 五グループ発表 地域連携について(対談)TPO(ディスカッション) 青島 俊夫 松田 邦男 三浦 紀雄 土行 純史 文部科学省 松田 邦男 基調講演・懇話会等による交流会 ミニ交流会
2月8日(土)	8:30~10:40 10:40~11:50 12:00~13:00 13:00~15:00	記念講演会 会員輪会 委員水産懇話会 平成7・8年度役員引継ぎ

京都商工会議所青年部

インターネットで 情報受発信



京都 YEG と有志企業5社は、9月下旬から11月にかけて最大規模の情報発信活動、インターネットを使って自社製品の宣伝販売や予約受付などの営業を始めた。

インターネットで情報を発信する企業は工業系、陶器、めん、旅館、アパレル、工務店、飲食など幅広い業種にわたり、本報には50社を超える。

京都 YEG はこれまでインターネットを利用して地域産業を支援し、掲載させる方法を探し合ってきた。しかし、中小零細企業のみならず YEG 企業にとって社

大のネットは経済性であった。地域、使用状況によって異なるが、1年に100万円は費用せねばならなかった。しかし、京都府が定額するインターネット基地「京都アイネット」が6月に誕生して状況が一変した。個人の場合、市内電話料金プラス年間6,000円で基本中と情報交換が出来ることになったのである。これによって京都の中小企業がバーチャルな事業展開が可能になったのである。販売だけでなく、仕入れる世界から見えるのである。中小零細企業が大会社に打ち勝つには、又、商店街の生

き取りをかけた戦いにも、インターネットが強力な武器になることを信じて寝ない。

一足で、全国で関心がある YEG の管理、表々のノウハウを提供し、全国的な情報網を作りあげたいとも考えています。まずは、アソシエーションとして実際に開催になって下さい。

http://web.kyoto-net.or.jp/org_kyotoorg/

連絡先: 京都商工会議所青年部副会長
石田 哲夫 030-71-36107

翔生 Communication PLAZA



こちらも連携時代

「日本J.C」と「商青連」のトップ会議が実現!



▲日本・日本J.C会談(左)と辻・商青連会長(右)

今までなかなか実現しなかった日本青年会議所(日本J.C)会頭と全国商工会議所青年部連合会(YEG)会長のトップ会議が、8月2日実現しました。

会議では、率直な意見交換がされ、「それぞれの団体が一層協力し、枠にとらわれない柔軟な対応が必要だ」といった様々な意見がだされました。

また、今後とも、地域経済の発展のためにJ.CとYEGが交流・連携し、足りないところを補完しあえる体制づくりが望ましいことを確認しました。

鹿児島―青森間2、150kmを走破! 日本縦断キャラバン交流を実施(鹿児島YEG)

本年7月、鹿児島・宮崎県民には待望の九州高速自動車道路「えびの一人吉」が開通しました。これにより、鹿児島と宮崎の間が短縮され、鹿児島YEGとの協力関係が強化され、連携を促進することになりました。

鹿児島YEGは、鹿児島県工業労働局長に、鹿児島YEG(鹿島全通大分県)委員長(以上)と、青森YEG(青森県青森市)委員長(以上)と、

一行は、鹿児島県鹿児島市をスタートし、宮崎県宮崎市、熊本県熊本市、大分県大分市、福岡県福岡市、佐賀県佐賀市、長門県下関市、山口県下関市、岡山県岡山市、広島県広島市、徳島県徳島市、香川県高松市、愛媛県高松市、高松市を通過し、

国土審議会から「四全総合的視点調査報告書」が発表され、「地域連携推進」が打ち出され、日本の国土の構造改革、活性化推進の構想が強く提言されました。平成7年度商青連活動方針の柱となっているYEG連携活動についてレポートします。

21名の総勢で、北行時間約10時間、休憩時間を含めると10日間のYEG連携の旅でした。この高速道路が開通したおかげで、人、物、情報が多量に流入していきます。鹿児島、宮崎間にとつてはアジア近隣諸国との交流を促進する上にも、北に向けてのビジネスチャンス、マーケット開発が広がることを期待しています。

鹿児島YEGは、鹿児島県工業労働局長に、鹿児島YEG(鹿島全通大分県)委員長(以上)と、青森YEG(青森県青森市)委員長(以上)と、

第一に、時間の短縮は肉体的に、心情的に大きな変化をもたらします。第二に、青森、北九州間の距離が短くなることで、ワールド・ハウス・システムといった観光施設と、鹿児島島の自然と宮崎のシーガイアとの連携が図れます。第三に、九州をバックアップする観光交流を促すことで、鹿児島、青森の間の観光、ビジネスを盛り上げ、鹿児島、宮崎のオーシャンリゾートを活性化し、観光客の増加を促すことが期待されています。



み出すことができませんでした。知らない土地で新たな出会いがあり、人との新しい交流の芽が生まれました。最終ゴールの青森では、13日間の旅の思い出と北国の交流を祝して、陸奥のタスティングに青森YEGから招待を受けました。

最後に、連携とは「お互いに密に連絡をとりあって、モノゴトを実施すること」であり、交流とは「違った集合体のもの。お互いに入り交じること」であります。



「紀伊半島内の経済連携を考える会」が発足

紀伊半島が「地域連携推進」構想のモデル地区」に指定されたことがきっかけに、定例会がスタートしました。定例会は、紀伊半島内の経済連携を考える会」が発足しました。

紀伊半島は、海山の自然や歴史風土に恵まれた日本

